

誰もがいつまでも楽しめるニュースポーツ。このコーナーでは、さまざまなニュースポーツの魅力を紹介します。

今月のスポーツ
ボッチャ

ヨーロッパ発祥の「ボッチャ」は、重度脳性麻痺者や同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたスポーツです。パラリンピックの正式種目で、東京2020パラリンピックでは杉村英孝選手が日本初の金メダルに輝きました。

競技は、ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青それぞれのボールをどれだけ近づけることができるかというシンプルなもの。その分、正確な投球や戦略が必要です。

競技のここが楽しい!

ボールを投げてジャックボール(目標球)を動かすことなどで、大逆転が起きるボッチャ。最後まで、試合結果が分かりません。



スポーツ推進委員

にしむら たかや
西村 鷹也 さん

簡単なルールで誰でも気軽に楽しむことができることから、市内のさまざまな場所で行われていますよ。



◀白色のジャックボールとの距離を計測

距離が近い青が勝利!

ボッチャは公民館講座や小学校で開催される「わくわく体験ニュースポーツ」などで体験できる場合があります。詳しくは、スポーツ課へ

問合せ スポーツ課 ☎ 382-9029 📠 382-9071



ひと・まち・モータースポーツ

“鈴鹿産・鈴鹿発”

フォーミュラカーレース、誕生20周年!

1983年6月、一人のトップライダーが不慮の事故により帰らぬ人となりました。そのライダーの名は木山賢吾選手(享年30)。ホンダ鈴鹿製作所の社内チーム「鈴鹿レーシング」所属からホンダRSCでの契約となり、鈴鹿8耐や国内レースでの活躍に加え、世界GPマシンの開発など、ますますの活躍が期待されていた中での悲報でした。

その約2カ月前にヘルメットとサイン入り色紙を木山選手から譲り受けたのが、メカニックとして支えた濱端進さん(72歳 鈴鹿ハイツ)。二人は自宅を行き来するほどの仲でしたが、結果的にこれらは木山選手の忘れ形見となってしまいました。

ビッグマシンを自在に操る豪快なライディングで知られた木山選手の走りは、たゆまぬ研究心に裏打ちされた繊細かつ理論的なものであり、安定感は抜群でした。それだけに事故の報に接した濱端さんの悲しみはもちろん、驚きも大きかったそうです。

開発ライダーとして木山選手が情熱を注いだマシンは、その年の世界チャンピオンに輝きました。



▲木山選手のヘルメットとサイン入り色紙

なかのよししげ

■中野能成(鈴鹿モータースポーツ友の会 事務局)

キーボード

全国瞬時警報システム「Jアラート」は、緊急地震速報や弾道ミサイル情報などを、防災無線などを通して私たちに伝えてくれます。私は、訓練放送でJアラートの警告音を初めて聞いたとき、その音の不気味さにドキっとしました。

この音は、映画「ゴジラ」の楽曲を手掛けた作曲家を叔父に持つ福祉工学者の伊福部達さんが、叔父の音楽を参考に生み出したものです。不協和音を使い、緊張感を作り出しています。また、動物が危険を知らせる時の鳴き声なども参考にして作られており、緊急地震速報で犬や猫も逃げ出したという話もあるそうです。

Jアラートの警告音は、即座に行動しなければという緊張感を与えてくれます。いつ何時、Jアラートが発動するか分かりません。そのときは、今回紹介した情報収集ツールを使って、大切な命を守りましょう。(晴)